

令和7年度 学習シラバス

教 科	科 目	履修学年	コース	履修区分	単 位 数
国語	現代の国語	1	共通	必修	2
使用教科書 副教材等	高等学校 現代の国語（第一学習社）				
学習目標	文章の構成や展開の仕方を、筋道立てて論理的に分析したり解釈したりする活動を通して、論理的に考える力を伸ばし、理解した事柄について効果的に表現し、言葉を通じて他者や社会に関わる態度を養う。				

授業計画

	学 習 内 容	学 習 の ね ら い
一 学 期 末 考 査 ま で	理解編 1 「本当の自分」幻想 理解編 1 羅生門 表現編 論理的な表現	・ 主題に至る論の構造を理解する。 ・ 主張に説得力を持たせるための論の展開について考える。 ・ 小説の文学的表現（特に比喻表現など）や構造、時代背景や登場人物の心情を、表現に即して読み取る。 ・ 作品に描かれた人物、情景、心情などを根拠に、主題について考える。 ・ 論理的に表現するための、主張と理由の関係性や妥当性について考える。
二 学 期 中 間 考 査 ま で	論理分析 【事実と意見】 「私作り」とプライバシー 理解編 2 水の東西 表現編 合意形成のための話し合いを行う	・ 「論理の型」（事実と意見）を学ぶ。 ・ 文章の構成や展開を確かめながら、筆者の主張を的確に読み取らせる。 ・ 対比関係を用いながら主張に説得力を持たせるための叙述の方法を、理解する。 ・ 話し合いの進め方のルールを理解する。 ・ 論点を共有し、考えを広げたり深めたりしながら、話し合いを実践する。
二 学 期 末 考 査 ま で	理解編 2 ものことば 理解編 2 砂に埋もれたル・コルビュジエ	・ 具体（例示）と抽象（主張）の関係を整理し、論理構成を理解する。 ・ 筆者の主張する言語の性質について、自分の体験等も交えて的確に考える。 ・ 過去の会話を重層的に描いた構成を理解する。 ・ 展開にしたがって、登場人物それぞれの心情とその変化を読み取る。
学 年 末 考 査 ま で	高校生のための愛媛の文学 理解編 4 フェアな競争 理解編 5 城の崎にて	・ 地域の文学、特に俳句において、内容、構成、表現、主題、動機について理解し、根拠ある鑑賞、創作の仕方を身に付ける。 ・ 内容や構成、論理の展開を正確に読み取る。 ・ 現状を理解させ、社会の一員としてのあり方を考える。 ・ 小動物の生と死をめぐる出来事が主人公の心情に及ぼした影響を、表現に即して読み取る。 ・ 作者が作品中で示した死生観について、考えを深める。
評 価 方 法	知識・技能…ノートへの書き込み、小テスト、ワークシート、定期考査 思考・判断・表現…ノートへの書き込み、小テスト、ワークシート、定期考査 主体的に学習に取り組む態度…学習活動への参加姿勢や態度、課題の提出状況	

令和7年度 学習シラバス

教 科	科 目	履修学年	コース	履修区分	単 位 数
国語	言語文化	1	共通	必修	2
使用教科書 副教材等	高等学校 言語文化（第一学習社）				
学習目標	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、国語の知識や技能を身に付け、言語文化に対する理解を深める。				

授業計画

	学 習 内 容	学 習 の ね ら い
一学期末 考查まで	古文入門 児のそら寝 絵仏師良秀 漢文入門 訓読に親しむ 歌物語 伊勢物語 芥川	- 古文を学ぶことの意義や楽しさを理解する。 - 説話を読み、古典に親しむ態度を身に付ける。 - 歴史的仮名遣いに慣れさせ、品詞について意識する。 - 漢文の基本構造を理解し、返り点の機能用法を正確に理解する。 - 登場人物の行動や心理を想像し、作品のおもしろさを味わう。 - 用言について理解する。
二学期中 間考査まで	故事成語 狐借虎威 蛇足 随筆（一） 枕草子 中納言参りたまひて 史伝 完璧 先従隗始	- 漢文独特の表現に慣れ、漢文の文章を正しく理解する。 - 故事成語の意味や成り立ちを理解する。 - 文章の展開に即して、作者のものの見方や感じ方を読み取る。 - 助動詞について理解する。 - 中国の歴史に興味を持つように、歴史的背景や人物像に触れながら中国史伝のおもしろさを味わう。
二学期末 考査まで	日記 土佐日記 門出 史伝 臥薪嘗胆 随筆（二） 徒然草 花は盛りに	- 日記の書かれた背景を踏まえて、作者の心情を理解する。 - やや長めの史伝を読み、登場人物について理解させ、主要な人物の考えや主張を読み取る。 - 思索的な随筆を読み、作者の批判的精神が提示する事柄を具体的に理解する。
学年末 考査まで	思想 論語 軍記物語 平家物語 木曾の最期 文章 桃花源紀	- 古代中国の思想について理解を深め、ものの見方、考え方を豊かにする。 - 軍記物語の特徴を知り、その展開と文章のおもしろさを味わう。 - 漢文の散文作品に触れて読みに慣れるとともに、桃源郷の由来ともなった理想郷のあり方を理解する。
評価方法	知識・技能…ノートへの書き込み、小テスト、ワークシート、定期考査 思考・判断・表現…ノートへの書き込み、小テスト、ワークシート、定期考査 主体的に学習に取り組む態度…学習活動への参加姿勢や態度、課題の提出状況	

令和7年度 学習シラバス

教 科	科 目	履修学年	コ ー ス	履修区分	単 位 数
地理歴史	地理総合	1	共通	必修	2
使用教科書 ・副教材等	新地理総合（帝国書院）、新詳高等地図（帝国書院）				
学習目標	持続可能な社会づくりを目指すために、環境条件と人々の生活との関りに注目し、現代の地理的な諸課題を考察する。また、グローバルな視点から国際理解や国際協力の在り方を学ぶ。さらに地域的な視点から防災等の諸課題への対応を考察するとともに、地図やGISなどを用い、実践的な地理的技能を身に付ける。				

授 業 計 画

	学 習 内 容	学 習 の ね ら い
一学期期末 考查まで	第1部 地図でとらえる現代世界 第1章 地図と地理情報システム 1節 地球上の位置と時差 2節 地図の役割と種類 第2章 結び付きを深める現代社会 1節 現代世界の国家と領域 2節 グローバル化する世界 第2部 国際理解と国際協力 第1章 生活文化の多様性と国際理解 1節 世界の地形と人々の生活 2節 世界の気候と人々の生活	・日常生活の中でみられるさまざまな地図の読図などを基に、地図や地理情報システムの役割や有用性などについて理解するとともに地図や地理情報システムについて、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。 ・現代世界の地域構成について、位置や範囲などに着目して、主題を設定し、世界的視野から見た日本の位置、国内や国家間の結び付きなどを多面的・多角的に考察し、表現する。 ・世界の人々の特色ある生活文化を基に、人々の生活文化が地理的環境から影響を受けたり、影響を与えたりして多様性をもつことや、地理的環境の変化によって変容することなどについて理解する。世界の人々の特色ある生活文化を基に、自他の文化を尊重し国際理解を図ることの重要性などについて理解する。
一学期期末 考查まで	3節 世界の言語・宗教と人々の生活 4節 歴史的背景と人々の生活 5節 世界の産業と人々の生活 第2章 地球的課題と国際協力 1節 複雑に絡み合う地球的課題 2節 地球環境問題 3節 資源・エネルギー問題 4節 人口問題 5節 食料問題 6節 都市・居住問題	・生活文化の多様性と国際理解について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。 ・世界各地で見られる地球環境問題、資源・エネルギー問題、人口・食料問題及び居住・都市問題などを基に、地球的課題の解決には持続可能な社会の実現を目指した各国の取り組みや国際協力が必要であることなどについて理解するとともに、地球的課題と国際協力について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。
学年末 考查まで	第3部 持続可能な地域づくりと私たち 第1章 自然環境と防災 1節 日本の自然環境 2節 地震・津波と防災 3節 火山災害と防災 4節 気象災害と防災 5節 自然災害への備え 第2章 生活圏の調査と地域の展望 1節 生活圏の調査と地域の展望	・さまざまな自然災害に対応したハザードマップや新旧地形図をはじめとする各種の地理情報について、その情報を収集し、読み取り、まとめる地理的技能を身に付けるとともに、地域性を踏まえた防災について、自然及び社会的条件との関わり、地域の共通点や差異、持続可能な地域づくりなどに着目して、主題を設定し、自然災害への備えや対応などを多面的・多角的に考察し、表現する。 ・生活圏の地理的な課題について、生活圏内や生活圏外との結び付き、地域の成り立ちや変容、持続可能な地域づくりなどに着目して、主題を設定し、課題解決に求められる取り組みなどを多面的・多角的に考察、構想し、表現する。
評価 方法	【知識・技能】定期考查・小テスト 【思考力・判断力・表現力】定期考查・小テスト・課題の取組・発表内容 【主体的に学習に取り組む態度】課題の取組・グループワーク・ノート整理 以上の3観点から総合的に評価する。	

令和7年度 学習シラバス

教 科	科 目	履修学年	コ ー ス	履修区分	単 位 数
地理歴史	歴史総合	1	全	必修	2
使用教科書・副教材等	私たちの歴史総合（清水書院）・歴史総合トレーニング（清水書院）				
学習目標	社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成する。				

授 業 計 画

	学 習 内 容	学 習 の ね ら い
一学期期末 考查まで	第1編 歴史の扉 第1章 歴史と私たち 第2章 歴史の特質と資料 第2編 近代化と私たち 第1章 生活や社会の変化を読み取ってみよう 第2章 結びつく世界と日本 （1）18世紀までの世界 （2）工業化と世界市場の形成 第3章 国民国家と明治維新 （1）国民国家と立憲体制	・遺物、文書、図像などの資料を活用して、1945年8月15日の「終戦」の持つ意味や意義、特色などを考察して表現し、歴史が資料に基づいて叙述されていることを理解する。 ・18世紀のアジアにおける生産と流通、アジア間やアジア諸国と欧米諸国の貿易などを基に、歴史的な見方・考え方を活用しながら、18世紀のアジア諸国における経済活動の特徴、アジア諸国と欧米諸国との関係などを多面的・多角的に考察し、表現することを通して、18世紀のアジアの経済と社会を理解する。 ・産業革命と交通・通信手段の革新、中国の開港と日本の開国などを基に、歴史的な見方・考え方を活用しながら、アジア諸国と欧米諸国との関係の変容などを多面的・多角的に考察し、表現することを通して、工業化と世界市場の形成を理解する。 ・18世紀後半以降の欧米の市民革命や国民統合の動向、日本の明治維新や大日本帝国憲法の制定などを基に、歴史的な見方・考え方を活用しながら、政治変革の特徴、国民国家の特徴や社会の変容などを多面的・多角的に考察し、表現することを通して、立憲体制と国民国家の形成を理解する。
二学期期末 考查まで	（2）帝国主義とアジア、アフリカの変容 第4章 近代化と現代的な諸課題 鉄道建設 第3編 国際秩序の変化や大衆化と私たち 第1章 生活や社会の変化を読み取ってみよう 第2章 第一次世界大戦と大衆社会 （1）第一次世界大会と国際社会 （2）1920年代の世界と大衆の時代の到来 第3章 経済危機と第二次世界大戦 （1）国際協調の挫折と2度目の世界大戦	・列強の進出と植民地の形成、日清・日露戦争などを基に、歴史的な見方・考え方を活用しながら、帝国主義政策の特徴、列強間の関係の変容などを多面的・多角的に考察し、表現することを通して、列強の帝国主義政策とアジア諸国の変容を理解する。 ・第一次世界大戦の展開、日本やアジアの経済成長、ソ連の成立とアメリカの台頭、ナショナリズムの動向と国際連盟の成立などを基に、歴史的な見方・考え方を活用しながら、第一次世界大戦の性格と惨禍、社会主義革命の意味や影響、第一次世界大戦後の国際協調体制の特徴などを、多角的に考察し、表現することを通して、総力戦と第一次世界大戦後の国際協調体制を理解する。 ・世界恐慌、ファシズムの伸長、日本の対外政策、第二次世界大戦の勃発などを基に、歴史的な見方・考え方を活用しながら、各国の世界恐慌への対応の特徴、国際協調体制の動揺の要因などを多面的・多角的に考察し、表現することを通して、国際協調体制の動揺や第二次世界大戦の勃発の背景に関する事柄を理解する。
学年末 考查まで	（2）世界大戦がもたらしたもの 第4章 国際秩序の変化や大衆化と現代的諸課題 ナショナリズム 第4編 グローバル化と私たち 第1章 生活や社会の変化を読み取ってみよう 第2章 冷戦と世界経済 （1）冷戦と国際政治 （2）世界経済の拡大と日本 第3章 世界秩序の変容と日本 （1）市場経済の変容と冷戦の終結 （2）冷戦終結後の世界 第4章 現代的な諸課題の形成と展望	・アジア太平洋戦争の展開、国際連合と国際経済体制、冷戦の始まりとアジア諸国の動向、戦後改革と日本国憲法の制定、平和条約と日本の独立の回復などを基に、第二次世界大戦の惨禍、第二次世界大戦下の社会状況や人々の生活、日本に対する占領政策と国際情勢との関係などを考察し、表現することを通して、第二次世界大戦後の国際秩序と日本の国際社会への復帰を理解する。 ・植民地化とアジア・アフリカ諸国、冷戦下の地域紛争、先進国の動向、軍備拡張や核兵器の管理などを基に、歴史的な見方・考え方を活用しながら、地域紛争と冷戦の関係、第三世界の国々の経済政策の特徴、欧米やソ連の政策転換の要因などを多角的に考察し、表現することを通して、国際政治の変容を理解する。 ・石油危機、アジアの諸地域の経済発展、冷戦の終結などを基に、歴史的な見方・考え方を活用しながら、市場経済のグローバル化の特徴と日本の役割などを多面的・多角的に考察し、表現することを通して、市場経済の変容と課題を理解する。
評価方法	【知識・理解】 定期考查 【思考・判断・表現】 授業態度・ノート整理・レポート課題 【主体的に取り組む態度】 授業態度・ノート整理・レポート課題 以上を総合的に判断して評価する。	

令和7年度 学習シラバス

教 科	科 目	履修学年	コ ー ス	履修区分	単 位 数
数 学	数学Ⅰ・数学A 数学Ⅱ	1	共通	必 修	6
使用教科書 ・副教材等	高等学校 数学Ⅰ（数研出版）、高等学校 数学A（数研出版）、高等学校 数学Ⅱ（数研出版） 4プロセス数学Ⅰ＋A（数研出版）、チャート式 解法と演習 数学Ⅰ＋A（数研出版）				
学習目標	数と式、図形と計量、2次関数、集合と命題、データの分析、場合の数と確率、図形の性質及び数学と人間の活動について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。				

授 業 計 画

	学 習 内 容	学 習 の ね ら い
一学期期末 考查まで	数学Ⅰ 第1章 数と式 1 式の計算 2 実数 3 1次不等式 数学Ⅰ 第3章 2次関数 1 2次関数とグラフ 2 2次関数の値の変化 3 2次方程式と2次不等式 数学Ⅰ 第2章 集合と命題	・数を実数まで拡張する意義や集合の基本的な概念を理解できるようにする。また、式を多面的に見たり処理したりするとともに、1次不等式を事象の考察に活用できるようにする。 ・2次関数とそのグラフについて理解し、2次関数を用いて数量の関係や変化を表現することの有用性を認識するとともに、それらを事象の考察に活用できるようにする。また、2次関数の値の変化について、グラフを用いて考察したり最大値や最小値を求めたりできるようにする。 ・2次方程式の解と2次関数のグラフとの関係について理解するとともに、数量の関係を2次不等式で表し2次関数のグラフを利用してその解を求めたりできるようにする。 ・命題に関する基本的な概念を理解できるようにする。 ・数え上げの原則や、順列・組合せ及びその総数の求め方について理解させる。
二学期中間 考查まで	数学A 第1章 場合の数と確率 1 場合の数 2 確率 数学A 第2章 図形の性質 1 平面図形 2 空間図形	・数え上げの原則や、順列・組合せ及びその総数の求め方を具体的な場面に活用できるようにする。また、身近な事象を基にして、不確定な事象の起こる程度を「数」を用いて表現することについての理解を深めるとともに、事象を数学的に考察する能力を養い、確率を活用する能力を伸ばす。 ・三角形の性質や円の性質についての理解を深め、図形の性質を論理的に考察し表現する能力を育成する。 ・平面図形の知識に加え、空間における直線や平面に関する基礎的な内容についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにするとともに、図形に対する直感力・洞察力を養う。
一学期期末 考查まで	数学A 第3章 数学と人間の活動 数学Ⅰ 第4章 図形と計量 1 三角比 2 三角形への応用	・整数の約数、倍数に関する基礎的な事柄を扱い、それらを具体的な解決に活用できるようにする。また、最大公約数を求める方法としてユークリッドの互除法を理解させ、その有用性を認識させると共に二元一次不定方程式の解法に活用する。さらに、整数の性質をいろいろな事象の考察に活用する。 ・三角比の意味やその基本的な性質について理解し、三角比を用いた計量の考えの有用性を認識するとともに、それらを事象の考察に活用できるようにする。 ・三角形の辺・角間の基本的関係として正弦定理や余弦定理を理解させ、平面図形や空間図形の計量に活用できるようにする。
学年末 考查まで	数学Ⅰ 第5章 データの分析 数学Ⅱ 第1章 式と証明 1 式と計算 2 等式・不等式の証明 数学Ⅱ 第2章 複素数と方程式 1 複素数と2次方程式の解 2 高次方程式	・統計の基本的な考えを理解するとともに、それを用いてデータを整理・分析し傾向を把握できるようにする。また、仮説検定の考え方をを用いて主張の妥当性を判断できるようにする。 ・整式の乗法・除法及び分数式の四則計算の仕方と意味について理解させ、式に関する基礎的な知識の習得と技能の習熟を図る。また、等式や不等式を証明することの意味や方法について理解させ、論理的な思考力や表現力を養う。次に、数の範囲を複素数まで拡張することにより、2次方程式がいつでも解をもつことを理解させる。さらに、因数分解をして高次方程式の解を求めることを通して、方程式についての理解を深める。
評価方法	【知識・技能】 授業・課題・単元テスト・定期考查等で判断する。 【思考力・判断力・表現力】 授業、課題、単元テスト、定期考查等で判断する。 【主体的に学習に取り組む態度】 出席状況、授業態度、授業中の発表、提出物等の状況等で判断する。	

令和7年度 学習シラバス

教 科	科 目	履修学年	コ ー ス	履修区分	単 位 数
理 科	化学基礎	1 年	共通	必修	2
使用教科書 ・副教材等	高等学校 化学基礎 (第一学習社) セミナー化学基礎 (第一学習社)				
学習目標	日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、化学的に探究する能力と態度を身に付けるとともに、化学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を養う。				

授 業 計 画

	学 習 内 容	学 習 の ね ら い
一 学 期 期 末 考 査	第Ⅰ章 物質の構成 第1節 物質の構成 ① 物質の成分 ② 物質の構成元素 ③ 状態変化と熱運動 第2節 原子の構造と元素の周期表 ① 原子の構造 ② イオン ③ 元素の相互関係 第3節 物質と化学結合 ① イオン結合 ② 共有結合 ③ 金属結合 ④ 結晶の比較 ⑤ 結晶と単位格子	- 化学が生活の中でどのように活かされているか理解する。 - 物質の性質を調べるために、物質の分類や分離・精製法、物質の状態変化について理解する。 - 物質を構成する元素とその検出法について理解する。 - 熱による物質の状態変化について理解する。 - 原子の構造と各原子の電子配置を理解する。 - 物質は原子、分子、イオンから成ることを理解する。 - 周期律と周期表、元素の性質について理解する。 - イオン結合とイオン結合でできた物質について理解する。 - 共有結合と電気陰性度について理解する。 - 金属結合と金属の性質について理解する。
二 学 期 中 間 考 査	第Ⅱ章 物質の変化 第1節 物質質量と化学反応式 ① 原子量・分子量と式量 ② 物質質量 ③ 溶解と濃度 ④ 化学変化と化学反応式 ⑤ 化学反応の量的関係 ⑥ 化学変化における諸法則	- 物質をつくる粒子の量の表し方について理解する。 - 化学反応によって起こる量的な変化について理解する。
一 学 期 期 末 考 査	第2節 酸と塩基の反応 ① 酸と塩基 ② 水素イオン濃度 ③ 中和と塩 ④ 中和滴定	- 酸と塩基の性質と電離度について理解する。 - 水の分子もわずかに電離して、水素イオンと水酸化物イオンを生じていることを理解する。 - 酸と塩基を中和させると塩が生成することを理解する。
学 年 末 考 査	第3節 酸化還元反応 ① 酸化と還元 ② 酸化剤と還元剤の反応 ③ 酸化還元の量的関係 ④ 金属のイオン化傾向 ⑤ 電池—酸化還元反応の利用—	- 酸化と還元の定義と酸化数について理解する。 - 酸化剤と還元剤とその反応について理解する。 - 金属のイオン化とイオン化傾向について理解する。 - 酸化還元反応が日常生活において多く利用されていることを理解する。
評価 方法	【知識・技能】 小テスト、定期考査、ノートの記述、観察・実験の態度、実験プリントの記述で評価 【思考・判断・表現】 授業発表、観察・実験の態度、ノートの記述、定期考査等で評価 【主体的に取り組む態度】 出欠状況、授業態度、授業発表、ノート等の整理状況で評価	

令和7年度 学習シラバス

教 科	科 目	履修学年	コース	履修区分	単 位 数
理科	地学基礎	1 年	共通	必修	2
使用教科書 副教材等	高等学校 地学基礎（啓林館） センサー地学基礎（啓林館） 地学学習帳（愛媛県高等学校教育研究会地学部門）				
学習目標	日常生活や社会との関連を図りながら地球や地球を取り巻く環境への関心を高め、目的意識を持って観察や実験を行い、科学的に探究する能力と態度を養う。また、地学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、自然環境の保全に寄与する態度を養う。				

授業計画

	学 習 内 容	学 習 の ね ら い
一学期 期末 考查 まで	第1部 固体地球とその活動 第1章 地球 第2章 活動する地球 第4部 自然との共生 第2節 地震災害・火山災害	- 過去の人達が、地球の形や大きさなどを推定した手法を学び、科学的なものの見方や考え方を理解する。 - 私たちの暮らす地球の大地がどのような特徴をもち、どのような活動が見られるのかを、様々な現象と関連付けながら理解する。 - プレートの分布と運動及びプレート運動に伴う大地形の形成について学び、火山活動と地震の発生の仕組みについて理解するとともに、それによる災害を知り、防災・減災への意識を高める。
二学期 中間 考查 まで	第2部 大気と海洋 第1章 大気の構造 第2章 太陽放射と大気・海水の運動	- 大気圏の特徴について理解する。特に、対流圏で起こる雲の発生や降水などの現象について理解する。 - 地球全体のエネルギー収支について理解し、大気の大循環や海水の循環について学び、それらがどのように熱輸送に関わっているかを理解する。
二学期 期末 考查 まで	第2部 大気と海洋 第3章 日本の天気 第4部 自然との共生 第3節 気象災害 第3部 移り変わる地球 第1章 地球の誕生	- 日本の四季を特徴づけているものや季節の移り変わりの要因となっているものについて理解する。 - 気象災害にはどのようなものがあるかを知り、防災・減災への意識を高める。 - 宇宙の誕生から現在まで、どのような進化の過程を経てきたかを学ぶ。また、恒星の1つである太陽の誕生と進化の過程と、太陽系の天体の特徴を理解する。
学年 末 考查 まで	第3部 移り変わる地球 第2章 地球と生命の進化 第3章 地球史の読み方 第4部 自然との共生	- 私たちの暮らす地球の誕生から現在に至るまでの変遷について、地球環境の変化と生物の活動も踏まえながら、一連の時間の中で捉えながら理解する。 - 堆積岩とその形成や地層と地質構造について学び、地球の過去の出来事を地層からどのように読み解くかについて理解する。 - 自然界の様々な現象は、多くの恩恵を与えてくれる反面、時には災害をとなって生活を脅かすこともある。これらの特徴や要因を知ること、自然と共生できる人間社会について考える。
評価 方法	【知識・技能】 定期考查、小テスト等で評価する。 【思考・判断・表現】 定期考查、実習のレポート等で評価する。 【主体的に学習に取り組む態度】 授業態度、実習レポート、課題の取組等で評価する。	

令和7年度 学習シラバス

教 科	科 目	履修学年	コ ー ス	履修区分	単 位 数
保健体育	体 育	1	共通（女子）	必修	3
使用教科書 ・副教材等	現代高等保健体育（大修館書店）				
学習目標	体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を育成する。				

授 業 計 画

	学 習 内 容	学 習 の ね ら い
一学期期末 考査まで	体づくり運動 球技Ⅰ 「バレーボール」・「ハンドボール」 水泳 「各種泳法（クロール）」 体育理論 「スポーツの発祥と発展Ⅰ」	- 中央高校体操、体ほぐしの運動などを通して、体を動かす楽しさや心地よさを味わい、運動を継続する意義、体の構造、運動の原則などを理解できるようにする。 - 健康の保持増進や調和のとれた体力の向上を図るための運動の計画を立て取り組むことができるようにする。 - ボールを相手側のコートの空いた場所や狙った場所に打ち返すことができるようにする。（バレーボール） - 味方が操作しやすいパスを送ることができるようにする。（ハンドボール） - 手と足の動き、呼吸のバランスを保ち、安定したペースで長く泳いだり速く泳いだりすることができるようにする。 - スポーツの意義や歴史、文化的特性や現代のスポーツを取り巻く様々な問題について理解できるようにする。
一学期中間 考査まで	体づくり運動 球技Ⅰ 「バレーボール」・「ハンドボール」	- 仲間と協力して課題を達成するなど、集団で挑戦するような運動を行うことを通して、気付いたり関わり合ったりできるようにする。 - 攻撃につなげるための次のプレイをしやすい高さや位置にボールを上げることができるようにする。（バレーボール） - パスを出した後に次のパスを受ける動きをすることができるようにする。（ハンドボール）
一学期期末 考査まで	球技Ⅱ 「ハンドボール」・「バレーボール」 陸上競技（中・長距離走） 体育理論 「スポーツの発祥と発展Ⅱ」	- ボールを相手側のコートの空いた場所や狙った場所に打ち返すことができるようにする。（バレーボール） - 味方が操作しやすいパスを送ることができるようにする。（ハンドボール） - 自己の能力に応じて、ねばり強く走る力を養う。 - スポーツの意義や歴史、文化的特性や現代のスポーツを取り巻く様々な問題について理解できるようにする。
学年末 考査まで	陸上競技（中・長距離走） 体育理論 「スポーツの発祥と発展Ⅲ」 球技Ⅱ 「ハンドボール」・「バレーボール」	- 自己の能力に応じて、中・長距離を速く走ることを目指し、ねばり強く走りきれる根気と体力を養う。 - スポーツの意義や歴史、文化的特性や現代のスポーツを取り巻く様々な問題について理解できるようにする。 - 攻撃につなげるための次のプレイをしやすい高さや位置にボールを上げることができるようにする。（バレーボール） - パスを出した後に次のパスを受ける動きをすることができるようにする。（ハンドボール）
評価方法	【知識・技能】 行動観察（運動の特性やルールなどの理解）、スキルテストやペーパーテストなどで評価する。 【思考・判断・表現】 授業中の発表、行動観察、ワークシートの記述内容などで評価する。 【主体的に学習に取り組む態度】 出欠状況、授業態度、授業中の発表などで評価する。	

令和7年度 学習シラバス

教 科	科 目	履修学年	コ ー ス	履修区分	単 位 数
保健体育	体 育	1	共通（男子）	必 修	3
使用教科書 ・副教材等	現代高等保健体育（大修館書店）				
学習目標	体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を育成する。				

授 業 計 画

	学 習 内 容	学 習 の ね ら い
一学期期末 考查まで	体づくり運動 球技Ⅰ 「ソフトボール」・「テニス」 水泳 「各種泳法（クロール）」 体育理論 「スポーツの発祥と発展Ⅰ」	- 中央高校体操、体ほぐしの運動などを通して、体を動かす楽しさや心地よさを味わい、運動を継続する意義、体の構造、運動の原則などを理解できるようにする。 - 健康の保持増進や調和のとれた体力の向上を図るための運動の計画を立て取り組むことができるようにする。 - タイミングを合わせてボールを捉えることができるようにする。（ソフトボール） - ボールを相手側のコートの空いた場所や狙った場所に打ち返すことができるようにする。（テニス） - 手と足の動き、呼吸のバランスを保ち、安定したペースで長く泳いだり速く泳いだりすることができるようにする。 - スポーツの意義や歴史、文化的特性や現代のスポーツを取り巻く様々な問題について理解できるようにする。
一学期中間 考查まで	体づくり運動 球技Ⅰ 「ソフトボール」・「テニス」	- 仲間と協力して課題を達成するなど、集団で挑戦するような運動を行うことを通して、気付いたり関わり合ったりできるようにする。 - ラリーの中で、味方の動きに合わせてコート上の空いている場所をカバーすることができるようにする。（ソフトボール） - パートナーと連携し、コースや球種を打ち分けるストロークによって攻防を展開できるようにする。（テニス）
二学期期末 考查まで	球技Ⅱ 「テニス」・「ソフトボール」 陸上競技（中・長距離走） 体育理論 「スポーツの発祥と発展Ⅱ」	- タイミングを合わせてボールを捉えることができるようにする。（ソフトボール） - ボールを相手側のコートの空いた場所や狙った場所に打ち返すことができるようにする。（テニス） - 自己の能力に応じて、ねばり強く走る力を養う。 - スポーツの意義や歴史、文化的特性や現代のスポーツを取り巻く様々な問題について理解できるようにする。
学年末 考查まで	陸上競技（中・長距離走） 体育理論 「スポーツの発祥と発展Ⅲ」 球技Ⅱ 「テニス」・「ソフトボール」	- 自己の能力に応じて、中・長距離を速く走ることを目指し、ねばり強く走りきれぬ根気と体力を養う。 - スポーツの意義や歴史、文化的特性や現代のスポーツを取り巻く様々な問題について理解できるようにする。 - 捕球場所へ最短距離で移動して、相手の打ったボールを捕ることができるようにする。（ソフトボール） - ラリーの中で、味方の動きに合わせてコート上の空いている場所をカバーすることができるようにする。（テニス）
評価方法	【知識・技能】行動観察（運動の特性やルールなどの理解）、スキルテストやペーパーテストなどで評価する。 【思考・判断・表現】授業中の発表、行動観察、ワークシートの記述内容などで評価する。 【主体的に学習に取り組む態度】出欠状況、授業態度、授業中の発表などで評価する。	

令和7年度 学習シラバス

教 科	科 目	履修学年	コ ー ス	履修区分	単 位 数
保健体育	保 健	1	共通	必修	1
使用教科書 ・副教材等	現代高等保健体育（大修館書店）				
学習目標	保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を育成する。				

授 業 計 画

	学 習 内 容	学 習 の ね ら い
一学期 期末 考查 まで	「安全な社会生活」 1 交通事故の現状と発生要因 2 安全な社会の形成 3 交通における安全 4 応急手当の意義とその基本 5 日常的な応急手当 6 心肺蘇生法	・安全な社会づくりには、環境の整備とそれに応じた個人の取組が必要であることを理解することができるようにする。 ・適切な応急手当は、生涯や疾病の悪化を軽減できること、応急手当には、正しい手順や方法があることを理解することができるようにする。 ・心肺蘇生法等の応急手当は、傷害や疾病によって身体が時間の経過とともに損なわれていく場合があることから、速やかに行う必要があることを理解することができるようにする。
一学期 中間 考查 まで	「現代社会と健康」 1 健康の考え方と成り立ち 2 私たちの健康のすがた 3 生活習慣病の予防と回復 4 がんの原因と予防 5 がんの治療と回復	・健康水準の向上や疾病構造の変化に伴って変わってきていることを理解することができるようにする。 ・健康の保持増進と生活習慣などの予防と回復には、運動、食事、休養及び睡眠の調和のとれた生活の実施や疾病の早期発見、および社会的な対策が必要であることを理解できるようにする。
二学期 期末 考查 まで	6 運動と健康 7 食事と健康 8 休養・睡眠と健康 9 喫煙と健康 10 飲酒と健康 11 薬物乱用と健康	・健康の保持増進と生活習慣などの予防と回復には、運動、食事、休養及び睡眠の調和のとれた生活の実施や疾病の早期発見、および社会的な対策が必要であることを理解できるようにする。 ・喫煙やと飲酒は、生活習慣病の要因になることを理解できるようにする。 ・薬物乱用は、心身の健康や社会に深刻な影響を与えることから行ってはならないことを理解することができるようにする。
学年 末 考查 まで	12 精神疾患の特徴 13 精神疾患の予防 14 精神疾患からの回復 15 現代の感染症 16 感染症の予防 17 性感染症・エイズとその予防 18 健康に関する意思決定・行動選択 19 健康に関する環境づくり	・精神疾患の予防と回復には、運動、食事、休養及び睡眠の調和のとれた生活を実施するとともに、心身の不調に気づくことが重要であることを理解することができるようにする。 ・感染症の発生や流行には、時代や地域によって違いがみられること。その予防には、個人の取組及び社会的な対策を行う必要があることを理解することができるようにする。 ・健康の保持増進には、ヘルスプロモーションの考え方を踏まえた個人の適切な意思決定や行動選択及び環境づくりが関連することを理解できるようにする。
評価 方法	【知識・技能】授業中の発表、行動観察（グループワーク）、ペーパーテスト（期末考查）などで評価する。 【思考・判断・表現】授業中の発表、行動観察（グループワーク）、ノートの記述内容などで評価する。 【主体的に学習に取り組む態度】出欠状況、授業態度、授業中の発表などで評価する。	

令和7年度 学習シラバス

教 科	科 目	履修学年	コース	履修区分	単 位 数
芸 術	音 楽 I	1	共 通	選 択	2
使用教科書 副教材等	MOUSA 1（教育芸術社）				
学習目標	音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を育成する。				

授業計画

	学 習 内 容	学 習 の ね ら い
一学期末 考查まで	歌唱 「Ave Maria」 「ヴォイス・トレーニング」 「翼をください」 歌唱 J-POP 器楽 「ソルフェージュ」 「Plymouth Rock」 「Clap, Tap with CUPS!」	・曲にふさわしい発声などの技能を身に付けるとともに、曲想と音楽の構造や歌詞との関わりを理解し、表現を工夫して表情豊かに歌う。 ・曲想と音楽の構造や歌詞との関わりを理解し、イメージをもって歌うとともに、自分や社会と音楽との関わりを考える。 ・ボディー・パーカッションや身近にあるコップなどを用いたリズム表現を通して音色や奏法、表現を工夫し、他者と協働しながら演奏する喜びを味わう。
二学期中 間考查まで	器楽 「見上げてごらん夜の星を」 「グリーンスリーブス」 「たこたこあがれ」 「子守歌」 「Canon」 「喜びの歌」	・リコーダーの奏法を身に付けるとともに、曲想と楽器の音色や奏法との関わりを理解し、表現を工夫して演奏する。 ・弦楽器に親しみ、その音色や表現の特徴を味わうとともに、奏法を身に付け、曲想と楽器の音色や奏法との関わりを理解し、表現を工夫して演奏する。
二学期末 考查まで	鑑賞 組曲《動物の謝肉祭》 交響曲第9番《合唱付き》 西洋音楽の流れ オーケストラを知ろう	・声やさまざまな楽器が生み出す響きやその特徴が、どのような要素やそれらの働きによってもたらされているのかを探るとともに、音楽のよさや美しさを味わう。
学年末 考查まで	歌唱 「故郷」 「懐かしきケンタッキーの我が家」 創作 楽典の基礎 旋律の創作（コード進行）	・各パートの役割を理解するとともに、全体の響きをイメージしながら表現を工夫して合唱やヴォイス・アンサンブルをする喜びを味わう。 ・多くの曲に用いられているコード進行をもとに、音のつなげ方やフレーズのまとまり、重なりによる響きを理解し、さまざまな手法を活用しながらイメージをもって創作する。
評価 方法	【知識・技能】 発言やワークシート等の記述内容、練習中や発表中の観察 【思考・判断・表現】 発言やワークシート等の記述内容、発表時の観察 【主体的に学習に取り組む態度】 発言やワークシート等の記述内容、活動への取組	

令和7年度 学習シラバス

教 科	科 目	履修学年	コ ー ス	履修区分	単 位 数
芸 術	美 術 I	1	共 通	選 択	2
使用教科書 ・副教材等	美術1（光村図書）				
学習目標	美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化に対する見方や感じ方を深め、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。				

授 業 計 画

	学 習 内 容	学 習 の ね ら い
一学期期末 考查まで	1 美術Iを学ぶにあたって 2 絵画「素描いろいろ」 ・鉛筆の特性と削り方 3 絵画 「鉛筆デッサン」 ・形態の把握 ・量感、存在感の表現 ・仕上げと鑑賞 4 デザイン「勉強したくなる教科書」 ・色の性質 ・色の効果と配色 ・文字の効果 ・ブックデザインについて ・発想の広げ方 ・デザインのブラッシュアップ ・仕上げと鑑賞	・これからの学習内容について確認する。 ・描画材の特性や扱い方を理解し、配置や構図を工夫して表現する。 ・対象を見つめて感じ取ったものを、新たに得た知識と鉛筆の幅広い表現方法の特徴を生かして表現する。 ・色彩の基礎における視覚的、技術的な仕組みを理解する。 ・色彩構成の目的や条件、造形的な美しさとの調和を考え、表現の構成を練る。 ・技法や材料、用具の特性を理解し、その特性や効果を生かした表現をする。 ・情報伝達の機能に関心を持ち、視覚的な美しさや効果的な表現について理解する。 ・様々な人権の課題に目を向け、ポスターとしての意義を考え、効果のあるデザインを感得する。
一学期中間 考查まで	5 映像メディア表現 「コマ撮りアニメーション」 ・アニメーションについて ・絵コンテの作成 ・動画への編集 6 絵画「抽象絵画表現」 ・油彩の特性と表現方法について ・詩を基に抽象表現を考える ・構図と配置 ・下地の処理 ・色彩の調和 ・マチュールの効果 ・作品鑑賞	・アニメーションにおける様々な表現方法を知る。 ・アニメーションの特徴を理解し、連続する視覚的な表現を工夫する。 ・素材や道具の特性に関心を持ち、その特徴を生かしながら計画的に制作し、表現することの楽しさを味わう。 ・目的や意図に応じて効果的な表現方法を探るとともに、形体や色彩、質感、空間などの表現を工夫する。 ・作品からその美しさやよさ、作者の心情や意図と表現の工夫について感じ取り、作品に対する見方や感じ方、考えなどを理解する。
一学期期末 考查まで	7 鑑賞「美術史探究」 ・美術史基礎 ・時代ごとの表現の変化について 8 彫刻「そっくりにつくる」 ・彫刻について ・条件の考察とイメージの具現化 ・量感の表現 ・着色の技法 ・作品鑑賞 9 1年間のまとめ	・作品が生み出す表現方法について関心を持ち、発見を楽しみながら作品に触れあう。 ・作品をじっくり鑑賞して気付きを増やし、新たな視点や作品の見方を習得する。 ・粘土や用具の特性や効果を生かし、表現方法を工夫しながら主題を追求する。 ・観察によって立体的空間の理解、質感、量感などを理解し、表現につなげる。 ・作品返却と振り返り
学年末 考查まで		
評価方法	【知識・技能】作品制作や鑑賞活動等の取組、学習プリントの記述内容等で評価する。 【思考・判断・表現】作品制作や鑑賞活動等の取組、アイデアスケッチ、学習プリントや自己評価シートの記述の内容で評価する。 【主体的に学習に取り組む態度】作品制作や鑑賞活動等での調整力や粘り強い取組、学習プリントや自己評価シートの記述の内容で評価する。	

令和7年度 学習シラバス

教科 芸術	科目 書道 I	履修学年 1	コース 共通	履修区分 選択	単位数 2
使用教科書 ・副教材等	書道 I（東京書籍）				
学習目標	書道の幅広い書活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、書の表現の方法や形式、多様性について幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばし、書の伝統と文化の意味や価値を考え、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。				

授 業 計 画

	学 習 内 容	学 習 の ね ら い
一学期期末 考查まで	1 書写から書道へ 2 漢字の書① (1) 楷書(初唐の楷書)(北魏の楷書) ① 背勢と向勢 ② 藏鋒と露鋒 ③ 北魏の書と龍門石窟	・中学校書写と関連させて、書道 I で学ぶ様々な書の美や書のよさを感じ取る。また、書の伝統や文化を理解するとともに、創造的活動に取り組む。 ・基本的な用具用材に関する知識や扱い方を理解する。 ・臨書学習を通して漢字の基本的な点画や線質の表現と、用筆・運筆の関係を理解し、古典の特徴を生かした表現に取り組む。 ・鑑賞を通して書の美を分析し、創造的な書表現に結びつける。
一学期中間 考查まで	3 漢字仮名交じりの書 ① イメージを文字で表現する ② 調和 ③ 古典を生かした表現線質・用具用材による表現の違い ④ 紙面構成 ⑤ 作品制作作品制作	・中央祭に展示する作品作りを通して、書を生活に生かす態度や喜びを味わい、目的や用途に即した表現を主体的に追求しながら、多様な表現の技能を身に付ける。
一学期期末 考查まで	4 漢字の書② (1) 行書(中国の書と日本の書) ① 流麗な運筆と字形の変化 ② 日本の書～三筆の書～ 5 漢字の書③ 様々な表現形式(半切制作)	・臨書学習を通して、行書の用筆と運筆の関わりについて理解し、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付ける。 ・中国及び日本の文字と書の文化について理解し、古典の比較を通して作品の良さや美しさの根拠を考える。 ・漢字とは異なる運筆・用筆について理解し、仮名の基礎的な表現力を身に付ける。 ・古典の書体や書風に即した用筆・運筆・字形・全体の構成を工夫し、表現するための技能を身に付ける。
学年末 考查まで	6 篆刻 検字・布字・運刀・補刀・側款 押印 7 仮名の書 (1) 基本的な筆使い (2) 連綿 (3) 古筆の美・仮名の変遷 8 まとめ	・立体表現における表現効果を踏まえ、篆刻の基礎的な知識や技能を生かしながら、効果的な表現の技能を身に付ける。 ・仮名の書の良さや美しさを感じ取り、感性を働かせながら主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組む。 ・書の伝統や日本・中国の文字文化と相互に関連させ、仮名の基礎的な知識や技能を生かしながら、効果的な表現の技能を身に付ける。 ・書の伝統的な鑑賞の方法や形態について理解を深め、伝統文化や書を愛好する心情を養う。
評価方法	【知識・技能】作品・制作等の取組、評価シート、学習プリント、ロイロノート等の記述内容で評価する。 【思考・判断・表現】作品、ロイロノート動画、制作等の取組、評価シート、書的分析、学習プリント等の記述内容で評価する。 【主体的に学習に取り組む態度】出席状況や授業態度、評価シートの記述・課題や提出物の取組等で評価する。	

令和7年度 学習シラバス

教 科	科 目	履修学年	コース	履修区分	単 位 数
外国語	英語コミュニケーションI	1	全	必 修	3
使用教科書 副教材等	LANDMARK English Communication I (啓林館)				
学習目標	聞くこと・読むこと・話すこと（やりとり）・話すこと（発表）・書くことなどの総合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり、適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図ることができる。				

授業計画

	学 習 内 容	学 習 の ね ら い
一学期末 考查まで	Lesson 1 Enjoy Your Journey! Lesson 2 Curry Travels around the World Lesson 3 School Uniforms	・高校生活における目標についての会話を聞いて、必要な情報を聞き取り理解する。 ・不定詞・動名詞について理解する。 ・カレーについての説明や会話を聞き、必要な情報を聞き取り、要点を捉える。 ・受動態・現在完了について理解する。 ・学校の制服についての会話を聞き、必要な情報を聞き取り、要点を捉える。 ・比較級・関係代名詞について理解する。
二学期中 間考查まで	Lesson 4 Eco-Tour on Yakushima Lesson 5 Bailey the Facility Dog	・世界遺産についての会話から必要な情報を聞き取り、要点を捉える。 ・関係副詞について理解する。 ・ファシリティドッグについての文章を読んだり聞いたりし、要点を把握する。 ・知覚動詞・使役動詞について理解する。
二学期末 考查まで	Lesson 6 Communication without Words Lesson 7 Dear World: Bana's War	・非言語コミュニケーションについての文章を通して、必要な情報を聞き取ったり、理解させたり詞、要点を把握する。 ・形式目的語itについて理解する。 ・バナの平和への思いや、SNSを用いた活動についての会話から必要な情報を聞き取り、それぞれの話し手の意図を把握する。 ・関係副詞・分詞構文について理解する。
学年末 考查まで	Lesson 8 The Best Education to Everyone, Everywhere Lesson 9 Space Elevator Lesson10 Friendship over Time	・将来の職業選択についての会話を聞いて必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握する。 ・過去完了・仮定法過去について理解する。 ・宇宙エレベーターで宇宙に行けるとしたらしてみたいことについて話している会話から、必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握する。 ・トルコと和歌山県大島との歴史から国際貢献の重要性を学ぶ。
評価方法	【知識及び技能】 授業中の発表・ペアワーク・小テスト・定期考査・パフォーマンステスト等で評価する。 【思考力・判断力・表現力等】 授業中の発表・ペアワーク・小テスト・定期考査・パフォーマンステスト等で評価する。 【主体的に学習に取り組む態度】 出席状況・授業態度・授業中の発表・ペアワーク・ノートやプリントへの課題取組で評価する。	

令和7年度 学習シラバス

教 科	科 目	履修学年	コース	履修区分	単 位 数
外国語	論理・表現 I	1	全	必 修	2
使用教科書 副教材等	Standard Vision Quest English Logic and Expression (啓林館)				
学習目標	基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ち、意見、主張などを論理の構成や展開を工夫して、伝えることができる。				

授業計画

	学 習 内 容	学 習 の ね ら い
一学期末 考查まで	Lesson 1 I want to introduce my new friend. Lesson 2 Do you want to join our show. Lesson 3 I'm planning a day trip this weekend. Lesson 4 Have you ever tried it before?	文の種類を理解する。 応答する。理由を述べる。 文型と動詞を理解する。 賛成・反対する。聞き直す。 時制を理解する。 激励する、励ます。計画する・予定する。 完了形を理解する。 経験を尋ねる、初めての経験を述べる。
二学期中 間考查まで	Lesson 5 What do you want to do after high school? Lesson 6 Did you hear about the new shop? Lesson 7 I'm happy to have you with you.	助動詞を理解する。 許可・依頼・義務・必要を表す。回想する・自省する。 受動態を理解する。 原因・影響を表す。喜び・驚きを表す。 不定詞を理解する。 感謝する。謝罪する。弁解する。
二学期末 考查まで	Lesson 8 What sports do you like playing? Lesson 9 Digital media has come a long way. Lesson 10 That's why I decided to go back.	動名詞を理解する。 誘う・申し出る。推薦する。 分詞（形容詞用法）を理解する。 描写する。判断の根拠を述べる。 関係詞を理解する。 定義する。言い換える。経緯を説明する。
学年末 考查まで	Lesson 11 Which do you prefer, cheaper beans or more expensive ones? Lesson 12 I think it's a good idea.	比較を理解する。 提案する。称賛する。 仮定法を理解する。 助言を求める・助言する。願望を表す。
評価方法	【知識・技能】小テスト、定期考查で評価する。 【思考・判断・表現】発表、小テスト、定期考查、課題の取組で評価する。 【主体的に学習に取り組む態度】出欠状況、授業態度、発表（スピーチ、プレゼンテーション、ディベート、ディスカッション）、課題の取組で評価する。	

令和7年度 学習シラバス

教 科	科 目	履修学年	コース	履修区分	単 位 数
家庭	家庭基礎	1	共通	必修	2
使用教科書 副教材等	図説 家庭基礎（実教出版） 家庭科ノート・調理実習ノート（愛媛県高等学校家庭科教育研究会）				
学習目標	生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を育てる。				

授業計画

	学 習 内 容	学 習 の ね ら い
一学期末 考查まで	○ オリエンテーション ○ 学校家庭クラブ活動 第1章 自分らしい生き方と家族 第2章 子どもとかかわる 第3章 高齢者とかかわる	・人の一生について、生涯発達の視点で捉え、様々な生き方を理解するとともに、自分の目指すライフスタイルを実現するために、生涯を見通した生活を設計することができるようにする。 ・青年期の課題である自立や男女の平等と相互の協力などについて理解する。また、男女が協力して家庭を築くことの意義や、現代の家族・家庭の機能や特徴について歴史的、文化的、社会的変化との関連から理解を深め、考察する。 ・乳幼児期の心身の発達とそれを支える生活、子どもが育つ環境、子育て支援、乳幼児との関わり方などについて基礎的な知識や技能を身に付け、子どもを生み育てることの意義、親や家族及び地域や社会の役割の重要性について考察する。 ・高齢者の心身の特徴、社会環境、高齢者と関わる際に重要な尊厳や自立の視点、関わり方などについて理解し、基礎的な技能を身に付けるとともに、高齢者の生活を支えるための家族、地域社会の役割の重要性について考察する。
二学期末 考查まで	第4章 社会とかかわる 第5章 食生活をつくる 第6章 衣生活をつくる	・人の一生を見通して、生活課題を主体的に解決していくために必要な福祉や社会的支援について理解し、生活をよりよくするために何が必要かについて理解を深める。 ・食生活に関わる基礎的・基本的な知識と技能を身に付け、栄養、食品、調理の学習を相互に関連付けながら、食生活に関わる情報を適切に判断し、生涯を通して健康や環境に配慮した安全な食生活を営むことができるようにする。 ・調理の基礎と食事の摂取量について知識と技能を身に付ける。 ・被服の機能と着装及び安全、環境に配慮した被服の計画・管理など衣生活に関わる基礎的・基本的な知識と技能を身に付け、生涯を通して健康で快適な衣生活を営むことができるようにする。
学年末 考查まで	第8章 経済的に自立する 第9章 消費行動を考える 第7章 住生活をつくる ○ 生活設計	・生活の基盤としての家計管理の重要性や家計と経済との関わりについて理解するとともに、収支バランス、リスク管理、将来にわたる不測の事態に備えた経済計画についても考察する。 ・消費者問題や消費者の権利や責任について理解し、自立した消費者として適切な意思決定に基づいて行動できるようにする。 ・安全性や日照、採光、換気、遮音、温熱、空気環境、高齢者、障がい者などへの配慮など住生活に関わる基礎的・基本的な知識と技能を身に付け、生涯を通して防災などの安全や環境に配慮した住生活や住環境を工夫することができるようにする。 ・学習を生かして、生涯を見通した生活設計を考察する。
評価方法	【知識・技能】 定期考查、実習・作品等で評価する。 【思考・判断・表現】 ノート・ワークシートの記述、作品、ホームプロジェクト、定期考查等で評価する。 【主体的に学習に取り組む態度】 ノート・ワークシート、実習・作品への取組、進捗状況及びその調整等で評価する。	